1-6 19 田中夕月

「一人 ひとり 異なる 対象に合った 療養環境を整えるために必要なことは何か?」

☆ナイチンゲールの看護について

・換気と保温の調節

患者さんの体を冷やさないようにするのは、もちろん外の空気と同じくらいキレイにしておく。
暑すぎず"寒すぎず"。

住居の衛生
① キレイな空気、② 清浄な水
③ 排水、④ 清潔
⑤ 陽光 ・病室、浴室、洗面所 ⇒ 100～200 lx
・廊下 ⇒ 100 lx ・処置室 ⇒ 500 lx

あなた方は進歩し続けない限りは退歩していることになるのです。
目的を高く掲げなさい。
ーナイチンゲールー

ラウンドを片手に患者さんの状態を見に行きベットによりそう。

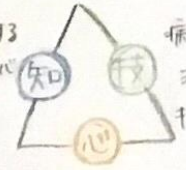
常に、患者さんの立場になって物事を考える。

一言一言考えて発言している。

看護師のあるべき姿

看護は「体内の回復過程を促進させること」
看護ではないことは「生命力を消耗させること」

看護は体が健康を阻げているものを除去しようとしたり、バランスをとろうとする自然の働き(回復過程)の中で、治癒力が働きやすいように、最も望ましい条件に(患者の)生命をおき、暮らしを整えていくことです。



病側に対する理性的な関心

病人の世話と治療についての技術的な関心

病人に対する心のこもった関心

思いやりの心

一人一人の患者によりそい
複雑な状況になっても看護の
視点でとらえ対象にあった
環境にしていく。
笑顔(表情)を大切に、周りを
よく見て、気付きの力をつける。

〈ベットメーキングについて〉

・マットは複数種類があり患者さんにあったマットレスを使う。(かたさが違う)

・丁寧にすることも大事だけど、かつ素早くする。(患者さんの不安を減らす)

〈感想〉

しわをのばしたり、中心線を合わせたりを早くしようとすると上手くできなかったです。
授業で、三角形を習ったようにきれいに出来たのでよかったです。

〈コミュニケーションと環境整備について〉

・患者さんの目線に合わせたり笑顔で話しをする。
・表情、明るさ、笑顔、声の大きさを意識して行う。

〈感想〉

最初は話す内容、聞きたいことなど頭の中で整理していなくて、笑顔のまま沈黙が流れてたけど、何度も何度も話しかけているうちに話しのひろげかたや、表情、トーンなどが合ってきました。

・患者さんが出来ることは自分でやらせ無理そうな所は手伝う。
・患者さんの私物をさわるときは一声かける。
・オーバーテーブル
↓
床頭台
↓
ベット周りの順番で、手伝っていく。

〈感想〉

自分に、何ができるかを看護師に聞くことができたし、患者の状態を見て、どこを手伝えばいいかを考え、患者の私物などを触る時は、一声かけるなど学ぶことは、しっかり学ぶことができたし1回目より2回目と回数をこなすうちに、自分になにが出来るかを理解することができました。

次の実習で自分が実践したい事

患者さんの積極的なケアになるコミュニケーションをとる。
⇩たとえば…
笑顔で、明るく、自分からあいさつをする。
患者さんが、話しやすい雰囲気を作る。
話す時や聞く時の姿勢や態度、言葉選びにも注意する。
患者さんの立場になって、今なにしてほしいのかを考えて積極的に行動する。

感想

この3日間で内容深いことがたくさん学ぶことができたし、学校であることと、病院で行う違いを知ることができました。
コミュニケーションも大切だなと気付かされました。話しの広げ方や、つなげ方もこの3日間で学ぶことが出来ました。
最終日には実際にサポーターをつけたりして患者さんの介助を実践することができました。また、患者さんから「ありがとう」といわれるうれしさに感動しました。

自分の目指す看護師

患者さんに対して常に優しく笑顔で頼られる存在になりたいです。
患者さんとの信頼関係を築くのも大切に、いつでも瞬時に対応出来て少しの異変にもすぐに気付くことができる看護師になりたいです。